

子どもたちに 物語の 読み聞かせを

東京都立多摩図書館 編





子ども時代の読書は特別です。

子どもたちは何をしても、楽しいときは生き生きとして、心が明るくなります。子ども時代の読書を考えるとき、一番大切なことは、子どもたちが心から楽しむことです。物語の主人公が危険な目にあうと、自分のことのようにドキドキします。ゆかいなできごとに大笑いし、幸せな結末に心から満足します。

読書によって、子どもたちは日常を離れて、空想を広げ、さまざまな感情を経験します。知恵や勇気を使って活躍する小さな主人公に自分を重ねて、生きていく力を得ます。

子ども時代の読書は、大人と全く異なります。子どもたちは、主人公になりきって本の世界を自由に楽しみます。読書が心の冒険であるとしたら、子ども時代の読書ほどはるか遠くへ、はるか高みまで旅することのできるものはありません。





大きい子どもたちも、 読んでもらうのが大好きです。

幼い子どもたちは、大人に絵本を読んでもらって読書生活の第一歩を踏み出します。子どもたちは、家庭や保育園、幼稚園で、たくさん絵本を読んでもらい、本が大好きになります。

ところが、小学校に入学して字を覚えると、子どもたちは自分で読むように言われます。大人は、子どもたちが字を覚えれば、すぐ本が読めると思ってしまうのです。しかし、字を読めるようになることと、本を読んで楽しむことの間には、大きな違いがあります。文字を一つ一つたどって読んでいても、生き生きとした内容は伝わってきません。自分の読める力量にあった本では、子どもっぽくてつまらないと感じます。あれほど好きだった読書から離れる子どももいます。本を読みなさいと強制されて、本嫌いになる子どももいます。

大きくなっても、子どもたちは本を読んでもらうことが大好きです。物語の本を読んでもらえば、子どもたちが楽しめる本の世界は、大きく広がります。

寝る前のひとときなどに、テレビを消してゆっくりと子どもに本を読んでみませんか？ 子どもにとって楽しみになるばかりでなく、親にとっても、子どもとのきずなを深める大切な時間になります。

親しみやすい楽しい本から始めます。

絵本では、子どもは絵を見ながら大人の読む声を聞いて、お話を楽しめます。一方、物語の本では、主に言葉で話が進んでいきます。慣れないうちは、起承転結のはっきりしたお話、具体的なことから目に見えるように書かれた文章など、間違いなく楽しめる本を選びましょう。

絵本に親しまないまま大きくなった子どもでも、抵抗なく本の世界に入っていけます。



ふしぎな500のぼうし

ドクター・スース さく・え
わたなべしげお やく
偕成社



おそうじをおぼえたがらない リスのゲルランゲ

J・ロッシュ＝マズン作
山口智子訳 堀内誠一画
福音館書店



ワニのライルがやってきた

B・ウェーバー さく
小杉佐恵子 やく
大日本図書



かしこいポリーと まめけなおおかみ

キャサリン・ストー作
佐藤涼子訳 若菜珪絵
金の星社

『番ねずみのヤカちゃん』は、人間の家にこっそり住んでいるお母さんねずみと4匹の子ねずみのお話です。お母さんは、いつも、人間に見つからないように静かにしなさいと言います。3匹は「うん、わかったよ、おかあさん」と小さな声で返事をします。でも、ヤカちゃんだけは「**うん、わかったよ、おかあさん**」と大声で答え、みんなをあわてさせます。何度注意されてもいつも大声で答えてしまうヤカちゃんに、聞いている子どもたちは笑いころげ、やがて、ヤカちゃんの活躍に大喜びします。小さい子から大きい子まで喜ばれるユーモラスな本です。



番ねずみのヤカちゃん

リチャード・ウィルバー さく
松岡享子 やく 大社玲子 え
福音館書店

同じように、笑いがたくさんあって、だれでも親しめる本には『ふしぎな500のぼうし』、『おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ』、『ワニのライルがやってきた』、『かしこいポリーとまめけなおおかみ』などがあります。

子どもは、自分が本の主人公になってしまいます。

子どもたちは、大人が思いもかけないような考えや、自由な発想を持っています。本を読むときにも、自分と同じように自由で、ゆかいで、元気な仲間を見つけ、主人公になりきって、楽しめます。

『エルマーのぼうけん』では、元気な男の子エルマーが、どうぶつ島で働かされているかわいそうな竜の子どもを助けにでかけます。リュックサックにはチューインガム、輪ゴム一箱、虫めがね6つ、リボン7本、そのほかいろいろ。こんなおかしなものを使って、エルマーはみごと竜を助け出します。



エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット さく
ルース・クリスマン・ガネット え
わたなべしげお やく
福音館書店



きつねものがたり

ヨゼフ・ラダ さく・え
うちだりさこ やく
福音館書店



くまの子ウーフ

神沢利子作 井上洋介絵
ポプラ社

魅力的な主人公が活躍する本には、『きつねものがたり』、『くまの子ウーフ』などがあります。



昔話は、宝の山です。

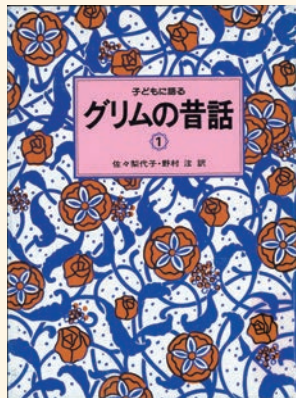
昔話は、世界のいろいろな国で、長い年月にわたって、世代から世代へと語り伝えられてきました。そのため文字で読むより、語ってもらった方がずっとおもしろく感じられます。子どもたちが昔話を読んでもらうことは、昔話の本来の楽しみ方に近いといえます。

昔話には、人々の暮らしや知恵や様々な願いがこめられています。子どもたちは、力の弱い主人公が、冒険の末に幸せになるお話に勇気づけられ、自分の人生を肯定する手がかりを見つけます。だからこそ、今を生きる子どもたちにも、素朴な昔話は素直に受け入れられるのです。



子どもに語る日本の昔話
1～3

稲田和子、筒井悦子著
こぐま社



子どもに語るグリムの昔話
1～6

佐々梨代子、野村滋訳
こぐま社



イギリスとアイルランドの
昔話

石井桃子編・訳
J・D・バトン画
福音館書店

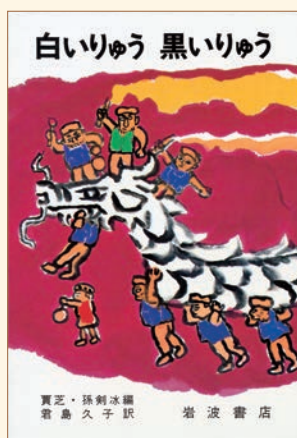
「三枚のお札」、「かにむかし」、「ききみみずきん」など、日本人は、豊かな昔話をたくさん伝えてきました。時には、読み手の大人にもわからない言葉が出てくるかもしれませんが、でも、昔話はストーリーが次々に展開していきますから、聞き手は話の大きな流れに乗ることができます。一つ一つの言葉がわからなくても、子どもたちが、大筋の話がわかるようであれば、気にせず読んであげてください。

現在、私たちは、世界中の昔話を楽しむことができます。お国柄をうかがわせる昔話をたっぷりと楽しんでください。



こども世界の民話

内田莉莎子ほか著
鈴木裕子画
実業之日本社



白いりゅう 黒いりゅう

賈芝・孫剣冰編
君島久子訳
岩波書店



エパミナンドス (愛蔵版おはなしのろうそく1)

東京子ども図書館編
東京子ども図書館



連作ものは読み聞かせに最適です。

同じ主人公が活躍する短いお話を集めた「連作もの」は、読み聞かせに向いています。毎晩、お話をまるごと一つ楽しめるし、次の日も、同じ主人公が活躍する新しいお話を読めます。「もっと読んで」とせがまれたら、「じゃ、今晚はおまけにもうひとつだけ」とリクエストにこたえてあげることもできます。

『車のいろは空のいろ』は、タクシーの運転手、松井五郎さんのお話です。毎日、ぴかぴかの空いろの車を走らせると、不思議なお客さんが次々と乗ってきます。



車のいろは空のいろ

あまんきみこ作
北田卓史絵
ポプラ社



あたまをつかった 小さなおばあさん

ホープ・ニューウェル作
松岡享子訳 山脇百合子画
福音館書店



長くつ下のピッピ

リンドグレン作
大塚勇三訳
岩波書店



ぼくは王さま

寺村輝夫作
和田誠絵
理論社



がんばれヘンリーくん

ペバリイ・クリアー作
松岡享子訳
ルイス・ダーリング絵
学習研究社

「連作もの」には、『あたまをつかった小さなおばあさん』、『長くつ下のピッピ』、『ぼくは王さま』、『がんばれヘンリーくん』などたくさんあります。忙しくて毎日読めない、長編では続かないという家庭には、連作ものはお勧めです。

短いお話を集めた短編集も、同じように、気軽に楽しめます。



豊かな本の世界を楽しみましょう。

子どもたちは、物語を聞くことに慣れてくると、長い話でも毎日聞き続けることが楽しみになるでしょう。

学齢があがると、興味も広がります。個性豊かな登場人物に共感したり、行ったことのない国を空想したり、ユーモアを楽しんだり、細やかな描写を味わうことができるようになります。本の好みも一人一人個性的になります。

そんな子どもたちには、いろいろなタイプの、少し長い物語を読んであげてください。

毎日の暮らしを描いた物語

子どもの日常や昔の暮らし、外国の人々の生活を描いた物語は、子どもに新鮮な驚きや共感、勇気やあこがれを与えてくれます。



大きな森の小さな家

ローラ・インガルス・ワイルダー作
ガース・ウィリアムズ画
恩地三保子訳
福音館書店



すえっこOちゃん

エディス＝ウンネルスタッド作
石井桃子訳
ルイス＝スロボドキン画
フェリシモ



火のくつと風のサンダル

ウルズラ＝ウェルフェル作
関楠生訳
童話館出版

冒 険

子どもたちが一番好きな話は、「はらはらどきどきする冒険」でしょう。主人公が探偵になって、大どろぼうをつかまえたり、お母さんを救うために知らぬ国へ旅に出かけたり。

主人公がどうなるのか、先を知りたくて、少し長い本でも、おもしろく聞けます。



**大どろぼう
ホツェンプロット**
ブロイスラー作 中村浩三訳
偕成社



小さなスプーンおばさん
アルフ＝ブリョイセン作
大塚勇三訳
学習研究社



ちびっこカムのぼうけん
神沢利子作
山田三郎絵
理論社



龍の子太郎
松谷みよ子著
田代三善絵
講談社



ぬすまれた宝物
ウィリアム・スタイグ作
金子メロン訳
評論社

動物物語

子どもたちは、動物が人間のように口をきいたり、冒険をしたりする話が好きます。



シャーロットのおくりもの

E.B.ホワイト作
ガース・ウィリアムズ絵
さくまゆみこ訳
あすなろ書房



冒険者たち

斎藤惇夫作
薮内正幸画
岩波書店



火曜日のごちそうは ヒキガエル

ラッセル・E・エリクソン作
ローレンス・D・フィオリ画
佐藤涼子訳
評論社



シートン動物記 オオカミ王ロボ

アーネスト・T・シートン作
今泉吉晴訳
童心社



名犬ラッシー

エリック=ナイト作
飯島淳秀訳 岩淵慶造絵
講談社

また、厳しい自然のなかで、たくましく生き抜く動物をありのままに描いた作品を好む子どもたちもいます。

ファンタジー

子どもたちは、ファンタジーが好きです。
映画になったものも少なくありませんが、あらためて原作を読むと、深い内容を持つことがわかります。
子どもたちは、読んでもらう声から、映像作品とは違う、その子だけのイメージを、豊かにふくらませます。



ライオンと魔女

C.S.ルイス作
瀬田貞二訳
岩波書店



はてしない物語

ミヒャエル・エンデ作
上田真而子、佐藤真理子訳
岩波書店



ホビットの冒険

J.R.R.トルキン作
瀬田貞二訳
岩波書店



くらやみ城の冒険

マージェリー・シャープ作
渡辺茂男訳
ガース・ウィリアムズ絵
岩波書店



床下の小人たち

メアリー・ノートン作
林容吉訳
岩波書店



だれも知らない小さな国

佐藤さとる著
講談社



読み聞かせQ&A

Q 子どもが集中して聞きません。

A 読み手が上の空だと、子どもは敏感にそれに気づき、本の世界に入れないことがあります。まず、読み手である大人が、物語を素直に楽しんでください。

また、大人はどうしても難しい本を選びがちです。子どもの様子を見ながら、もう少しやさしい本を読んでみてください。

Q 物語の本に興味を持ちません。

A 物語だけでなく、科学やノンフィクションなどの読み物を読み聞かせても楽しいでしょう。

Q 子どもがわかっているのか、喜んでいるのか、よくわからないのですが。

A 何も言わなくても、心は激しく動いているのです。感想を聞き出そうとせず、子どもが自分から話してくるまで、ゆっくり待ってください。

Q 何歳まで読み聞かせをしたらよいでしょうか。

A 子どもが喜んで聞く限り、続けてください。子ども時代は短く、親子で楽しめる時間は大切です。

Q 読み方が下手でもよいのでしょうか？

A 大丈夫です。子どもにとっては、大好きな身近な大人に読んでもらうことが、一番大きな幸せなのです。心をこめて、素直に、丁寧に読んであげてください。

Q いつ読んであげれば良いですか？

A それぞれの家庭の生活に合わせて、気持ちにゆとりのあるときを選んでください。長く続けるには、夕食の後、夜寝る前など、決まった時間にする方が良いでしょう。

病院で診察を待っているときや、風邪で寝ているときに、本を読んでもらうことは、大きな楽しみとも、慰めともなります。

Q どこで、どんなふうに始めれば良いですか？

A 家族が集まる居間やベッドのかたわらなど、聞き手も読み手も集中できる静かな場所が良いでしょう。一緒にふとんに入って、読むのも楽しいでしょう。さし絵があれば、見せてあげてください。

少し照れくさくても、「さあ、始めるよ」と呼びかけてみませんか。





図書館にはたくさんの 子どもの本があります。

東京都内には、区市町村立図書館が400館近くあり、簡単な手続で、無料で本が借りられます。子どもの本や読書について、図書館の職員に相談もできます。

決まった時間におはなし会をやっている図書館もあります。おはなし会では、子どもに本を楽しんでもらうために、絵本の読み聞かせやストーリーテリング※などをしています。

お近くの図書館を、ぜひ、ご利用ください。

※ストーリーテリングとは、昔話や創作のお話をテキストを読まずに、語り手が直接聞き手に語り聞かせることです。

子どもに読み聞かせをすることは、心に種をまくようなものです。すぐに目に見える効果はなくても、いつか種から芽が出て、葉を茂らせ、花を咲かせます。

そして、大好きな身近な大人に読んでもらった楽しいひとときは、その声とともに、深く子どもの心に根をおろし、その子の生涯を支えてくれます。

この小冊子は、小学校6年間を通してお使いください。ページが進むにしたがって、紹介している本の対象年齢も上がっていきます。

東京都立多摩図書館児童青少年資料係では、子どもの本や読書についてのご質問、ご相談をお受けしております。

いつでも気軽にご利用ください。

東京都立多摩図書館

電 話 042-524-6428（児童青少年資料係ダイヤルイン）

都立図書館ホームページ：<http://www.library.metro.tokyo.jp/>

こどもページ：

検 索

登録番号（26）1

東京都子供読書活動推進資料

子どもたちに物語の読み聞かせを

平成16（2004）年3月1日発行

平成26（2014）年5月1日改訂

編集・発行 東京都立多摩図書館

〒190-8543

東京都立川市錦町六丁目3番1号

（東京都多摩教育センター内）

電 話 042-524-6428

ファクシミリ 042-525-9168

デザイン

ムックハウス・ジュニア

R100

このマークは、児童向けに2000年制定されています
児童館等でもさまざまなイベントで使用しています



東京都教育委員会